

はじめに、この度の新型コロナウイルス感染症によってお亡くなりになられた方々に哀悼の意を捧げます。また、罹患されたみなさまの一日も早いご回復を願っております。

今回の感染症流行により、本学のみならず多くの学校で卒業式が中止となっております。学生生活の集大成のイベントが中止になったことで、多くの方が残念に思われていることと察します。私自身も学生生活最後の卒業式が中止となり、悔しい思いでいっぱいです。文面ではありますが、この場をお借りし、4年間の大学生活への感謝の思いを綴らせていただきます。

思い返せば4年前の4月1日、これから始まる大学生活に期待と不安を抱きながら本学の門をくぐりました。広大で緑豊かな東松山キャンパスを目の当たりにし、新しい出会いやキャンパスライフに胸を膨らませたことを、今でも鮮明に覚えています。

大学に入学して2週間、私の故郷である熊本県を大地震が襲いました。熊本が大変な状況になっている中、私は大学生活を続けていくことに心の中で葛藤していました。複雑な気持ちに日に日に大きくなっていく私を助けてくださったのが大東文化大学で出会った友人、大学の先生方、事務職員の皆さんでした。「熊本は大丈夫?」、「家族の人は元気?」など、皆さんからかけていただいた言葉は、私が大学生活を続けていくうえでの大きな支えとなりました。大学だけでなく、青桐会や同窓会の皆さんからも様々な形で熊本に温かいご支援をいただきました。本当にありがとうございました。

4年間にわたる大学生活の中で、私は多くの人と出会い、様々な経験をしました。その中で大きく分けて2つのことを大学生活で得られたと考えます。

まず1つ目は「夢」です。私は大学入学以前より、教員採用試験に合格して公立学校の教師になるという夢を持っていました。大学入学当初は中学校と高等学校の教員免許を取得しようと考えていましたが、副免許で小学校免許を取得できることを知り、挑戦しようと決意しました。びっしり詰まった時間割や東松山校舎と板橋校舎の移動、テスト勉強やレポート課題など、2年次以降はとてもしばしば忙しい毎日を過ごしました。ときには「教師になる」という目標を諦めかけた時もありましたが、友人や学部の先生方、そして教職課程センターの皆さんのおかげで大変な時期を乗り越えることができました。教員採用試験の直前には、先生方から熱心な指導をしていただきました。とくに面接練習では、自分の考えや思いを伝えることができず、悔しい思いをすることが何度もありました。それでも先生方からは様々なアドバイスをいただきました。たくさんの方々の支えや応援により、私は熊本県の小学校教員採用試験に合格することができました。

2つ目は「人とのつながり」です。大学生活4年間を通し、友人や大学の先生方、事務職員のみなさんなど多くの方々と出会うことができました。その出会いは、本学に入学したから得られたものです。1つ1つの出会いは、私の今後の人生に大きな意味を持つものだと思います。大東文化大学でつながった「ご縁」を今後も大切にしていきます。

今日の社会はグローバル化の進展によって多様化しています。これからの社会を生きていくうえで必要なことは「多文化共生」、「異文化理解」という考え方ではないかと思います。この2つの考え方は国際関係学部で過ごした4年間で培ったものです。この考えを大切に、社会で頑張っていきます。

4月から私たち卒業生は新たな生活が始まります。その先には、楽しいことだけでなく、様々な困難が待ち受けていることでしょう。しかし私たちは決して諦めません。大東文化大学の4年間で学び得たこと、4年間の思い出を胸に、そして本学の卒業生であることに誇りを持ち、それぞれの道で歩んでいきます。

私たち卒業生は大東文化大学が今後も輝き続けることを望んでおります。今後の大東文化大学の益々の発展、そして皆様のご健康をお祈りいたしまして卒業生代表挨拶とさせていただきます。4年間ありがとうございました。

2020年（令和2年）3月19日

大東文化大学 国際関係学部 国際関係学科

浦部敬太